

# 国際長寿センター(ILC-Japan) 平成 23 年度事業計画 (案)

## 1) 運営の基本方針

国際長寿センター (ILC-Japan) は、少子高齢社会の到来に伴う様々な課題を Productive Aging の理念に基づき、国際的・学際的な視点から調査・研究し、国内外の社会に広く広報・啓発することを目的に、平成 2 年 (1990 年) 11 月に設立された。

ILC グローバル・アライアンスの一員として他の 11 カ国 (アメリカ・イギリス・フランス・ドミニカ共和国・インド・南アフリカ・アルゼンチン・オランダ・イスラエル・シンガポール・チェコ) との友好・協力関係を基盤にした世界的な取り組みと同時に、国内でも様々な活動を行ってきた。

平成 23 年度はグローバル・アライアンスのネットワークを活用した国際交流、国内外への情報発信に加えて、国際比較調査・研究の充実および人的交流の推進を目指す。

## 2) 事業計画

### (1) アライアンスとの協働による国際情報収集、分析研究、啓発活動

#### ① 高齢社会と高齢者の暮らし国際比較研究

日本の高齢化と高齢者の暮らしの実態を多面的に切り取り、分析するとともに、ILC グローバル・アライアンスを中心にしたネットワークを活用して、世界各国の高齢社会における課題と取り組みを探る。

また、フィールドワークとして、各国の高齢者の就労状況についてインタビュー調査を行い、それぞれ異なる文化と制度下における各国の実態把握と課題抽出をはかる。

各国との比較から日本における望ましい高齢社会のあり方を模索すると同時に、社会と個人の「長寿リテラシー」の向上を目指す。

報告書は、日本語版『高齢社会を生きる~Aging- Our Global Relations』と英語版『A Profile of Older Japanese』を作成するとともに、印刷物のみならず、特に若年世代の長寿リテラシー向上のため、コンテンツを平易にカスタマイズした電子書籍「健康寿命 90 年」も作成する。

#### ② 在宅介護と看取りに関する国際比較調査・研究

海外における在宅介護と看取りに関する施策・研究・実態の最新動向を明らかにし、我が国の在宅介護の今後の展開と看取りのあり方への具体的な指針を明確にすることを目的とする 3 カ年継続研究の 3 年目を実施する。

### ③国際シンポジウムの開催

9月にオランダ・ライデンにおいて、「虚弱高齢者の統合ケア」をテーマに ILC グローバル・アライアンス国際シンポジウムを開催する。  
また、併せて ILC-Japan の研究成果の発表を兼ねた「理想の看取りと死に関する国際比較セミナー」も開催の予定。

## (2) 国際的な交流と海外諸団体との連携

### ① ILC グローバル・アライアンス年次総会

グローバル・アライアンス年次総会を9月28日から30日にかけて、ILC オランダを当番国として開催する。今年次総会では、加盟各国がそれぞれの活動報告と計画を発表すると同時に、特に今後のアライアンス運営や財政の強化などについて協議する。

### ② 国際会議・学会への参加

国内外で開催される重要な国際会議に積極的に参加し、正確な日本情報の発信に努める。(2011年10月23-27日：国際老年学会アジア・オセアニア地域会議(メルボルン)など)

### ③ 海外諸団体への人的資源の紹介と情報提供

様々な目的で来日する専門家・ジャーナリスト・行政担当者などに対し、ILCのネットワークを通じての人的資源の紹介や、正確で偏りのない情報提供を目指すとともに、海外の組織・団体・個人の研究・事業への情報提供や適切なアドバイスなどを、積極的に行う。

### ④ 国内行政担当者・専門家・ジャーナリスト等への国際交流支援

また、海外の高齢問題に関する調査研究や情報収集を行うことを目的とし、日本の行政担当者、専門家、ジャーナリスト等の ILC Alliance 各国との交流を支援する。

## (3) 安定的な財源の確保

- ① 民間企業からの支援の継続を目指し、賛助会員企業への適格で丁寧な情報提供を図るとともに、企業との「協働」の可能性を模索する。
- ② 個別プロジェクトに対する企業・助成財団の支援を得るため、積極的な取り組みを行う。
- ③ 補助金の継続的な交付を目指す。